

墨田区基本構想審議会委員より寄せられた、
区の改善すべきところ、課題だと思う点（６２件）

産業、商業、観光

（産業）

- ・ものづくりのまちとして発展してきた中で、町工場など事業所の数が減少している。既存の工場に代わって新たに住宅に置き換わっていく中で、住宅、工場との混在する状況において生活環境の調和が円滑に図られていること。
- ・良質な技術力の保持継承の支援と日本伝統芸のクローズアップ支援
例:① 良質なモノ作りで地域産業に貢献する企業・職人さんの支援体制を検討し後継者育成の土壌を助成する。② 墨田で活動をする日本の伝統芸術・芸能を継承する団体と親睦を強化し協働(向島墨堤組合・五代目三遊亭園楽一門会など)従来から定番としている観光資源(北斎・相撲・刀剣・交響楽団)と等しく【生きた伝統芸】がこれからも墨田を礎に活躍が出来、発展が叶うよう、携わる方々への新規転入居の誘致も含め支援の実施を検討されてはいかがでしょうか。
- ・企業のスタートアップ支援も重要だが、それらの企業が何年事業継続し、墨田区に根付いてくれるのか検証が必要である。既存企業の事業継承が厳しい中、SIC の役割が既存企業への支援になっているとは思われない。具体的な支援方法はわからないが、もっと既存企業の廃業の分析を行い、対策をとった方が良いのではないか。また、ライオンや正徳硝子のように土地が少ない墨田区だからこそ、優良な企業が他地域に転出しないよう上位職が自分ごととして対応してくれることを期待する。
- ・地域の産業が不安になること。

（商業）

- ・商店が成り立つための助成や情報発信の工夫・商店街の活性化
例:① すみここ(小冊子の復活) ② 商店街に保育所を設け子育て世代・次世代が馴染める町の動線を作り出す。
- ・スカイツリーやオリナスなど、商業施設ばかりに人が集まり、経済が潤っていると感じ、周りの小さなお店や墨田区に本社をもつ企業に循環しているか不安になる。
区の予算を使った電子マネー（PayPay）のキャッシュバックも人気のある同じ店ばかりで利用されている印象。

（観光）

- ・訪日外国人の調和と制限
移動人口による経済効果やさらなるシビックプライド高揚のためにも、訪日外国人の受け入れ体制強化の一方、民泊のコントロールや不法滞在者への徹底対応は治安・生活環境維持のため重要。

- ・観光客、特に近年は外国人観光客が激増しているが、地震など災害発生時の避難誘導はじめ観光客への対応準備はどの程度進んでいるのか。
- ・非常に多くのコンテンツに恵まれている一方、それぞれの活用が分散してしまって来街者への訴求力が今一つに感じる。テーマパークのような発想で、エリアごとに活用テンツを名確化して徹底的な展開をするようにしてはどうか。

スポーツ

- ・区民が使えるスポーツ施設が少ない。現在、総合体育館（ひがしんアリーナ）しかない。

健康・福祉

- ・健康に対する意識が低い（タバコなど）。ヘルスリテラシーが低い。
- ・高齢者・障害者等弱者の対応
- ・高齢者が多くなってきている中、高齢者の方々の健康維持に向けての取り組みの発信が少ない。

こども・教育

- ・少子化、不登校児童や教育上の配慮が必要な外国人児童の増加、IT 教育への対応など、日本の学校が直面する課題は増えている。墨田区が将来さらに活性化していくためにも、学校教育への注力は重要。
- ・「幼小接続」と言われて久しいのに、幼稚園・保育所・小学校の接続がうまく進んでいないこと。単なる見学や給食体験ではなく、教師間の交流や幼保の連携が他地域の取組から見ると著しく遅れていること。
- ・学校施設や区の施設の活用があまり周知されていない。

地域・つながり

（つながり・ひと）

- ・自分のエリア（例えば町会）以外には割と冷たいところ。
- ・後からの住民を「ヨソモノ」と思い、態度が違うところ。
- ・自分の周り、自宅の周囲、地域の課題に目を向けること。
（集合住宅がたくさん建設され、身近な地域の歴史、文化、暮らし方などで、行き違いやズレが生じることが、問題や課題への無関心につながっている。）
- ・地域のコミュニティーをもう少し開かれたものにしたい。
（生まれ育った街を愛し、誇りを持つことは素晴らしいが、それが敷居の高さにつながらないようにしたい。）

- ・下町人情の雰囲気、人とのふれあいという面において、新しい人口が流入する昨今の状況の中で、下町の良さや区民同士の交流などのまちの雰囲気を維持・発展させていくこと。
- ・墨田区の歴史や地元に対する想いが強い一方で、転入者や外国人などのよそ者に対しての声を取り込めていない。
よって、創造的な未来を考えることができていない。
- ・ワンルームマンションの増加で地域に関心の低い住民が多い宅地化が進んでいる。
一方で、町会は転入者の加入も少なく、役員などは成り手もなく高齢化している。働き盛りは、住宅費がかかりすぎるため転出してしまう。地域イベントや行政活動支援などに係る地域力は低下していると感じる。
- ・今後増えていきそうなのが、新旧住民の軋轢。キラキラ橋商店街で車庫付き住宅の建設反対運動が起きたが、地域との交流が難しい集合住宅などが増えていくと、こういうケースはどんどん増えていくだろう。
浅草の観音裏の辺りに住んでいる人が京島を見て「これは10年前の浅草の姿だ」と言っていた。今の浅草は、地域との交流を求めている人たちが、交通アクセスや生活のしやすさだけで住み始め、問題になっている。
「墨田区はこういう町」というビジョンを明確にしていかなないと、今の墨田区の文化や地域社会を維持していくのは難しいのではないか。
すでに指摘されているように、ジェントリフィケーションの問題もある。特に一部の地主が支えている京島地区などは、今の地主さんが亡くなったら、一気に開発が進んでしまう可能性があり、今の墨田区の良さが失われてしまう不安を感じている住民も少なくない。
- ・地域社会の「つながり」や地域に対する「関心」が希薄化しているので、関心を持って生活することが大切だと思う。

まちなみ・交通

(住環境(道路・公園・住宅))

- ・楽しく安全に歩ける道がない。
(お年寄りやベビーカー、子供達を含め、誰もが楽しく安全に歩けるような歩道の整備。
街路樹やベンチなどが無い。車や自転車との分離なども課題。)
- ・高齢者や子育て世代が安心して散歩や遊びができるような公園や緑道、水辺の空間など、自転車の練習、ミニバスケなどができるオープンスペースを増やしてほしい。密集していることで生まれるスペースの活用を進めて欲しい。
- ・街路樹管理と小ベンチ整備
例:① 財源は寄付(個人・企業)公募も活用し、整備を進める。管理が行き届いた景色は防犯上も効果的かと思われます。また小ベンチの設置は高齢者にもやさしい街の配慮のカタチであって欲しい、そんな思いに由ります。
- ・住宅施策
ワンルームマンションをはじめ、床面積の小さい物件が多く、家賃・価格の上昇もあり

ファミリー層が途中で転出してしまう。

- ・現在、特に南部地域を中心にシングル向けのマンションの建設が増えており、単身世帯の住民が増加し税制が潤っている。反面、ファミリー向けのマンションが少なく、また高価格帯であることから子育て世帯がある一定の年齢になると他地域へ転出する傾向にあると聞く。子育て世代が転出しないよう、住宅補助や子育て向けの住居の建設など住み続けたいまちの支援を強化すべきである。
- ・モラルの低い区民がいる。道路や公園でのタバコやごみのポイ捨て、自動車と自転車の危険運転が見られる。もっと厳しく取り締まれないだろうか。モラルの低い人のせいで区民が不快な思いをしたり危険に晒らされたりするのを避けたい。
- ・道幅が狭い、見通しが悪い、ガードレールがない道路がある、歩行者、自転車、バイク、自動車にとって危険。危険個所の洗い出しと対策が必要であると考え。誰にとっても安心安全な道路を目指したい。
- ・老人クラブの「歩く会」で古いゆかりのある吾嬭神社へ行ったとき、隣接して吾嬭公園がありました。ここは草がボーボーで公園の程を成していませんでした。よく見るとトイレと水道がありませんでした。どんな小さな公園でもトイレと水道があれば、必ず誰かが来ますし、とりわけ災害時の一時避難場所としては本当に大事です。指定された避難場所だけでは収容しきれません。色んな意味で公園の活用が大事になりますので、トイレ、水道は最小限保障として維持しつつ、もっと個数を多くし、子どもだけでなく老人も使える、例えば台東区にある簡単な柔軟体操ができる補助器具なども設置してもらいたい。公園の位置付けを高めてもらいたいと思います。
- ・暮らし続けたいような水辺・公園整備。
- ・公園が少ない
特に子ども達が自分で遊びを見つけられるような公園が必要。
(遊びを限定する大型遊具がない公園がもっとあるとよい。)
- ・立川四丁目の橋（南辻橋）の架替工事に10年もの年月がかかってしまい、時間のかけすぎである。地元としては迷惑。同じ下流の大横川の江東区の三石橋工事は2年半で完成。それが普通。

（景観）

- ・密集していることで、乱雑に見えるのではなく、隅々まで目が行き届いているような環境整備を進めて欲しい、もっと景観デザインの視点が欲しい。たとえば、電線の地中化や、道路よりも狭い路地スペースを歩行者空間として整備することなど。
- ・都市計画がない、もしくは不明確。墨田区の資源である向島や京島などの情緒ある昭和な街並みの景観を維持するため、防災の観点と情緒を融合した開発計画があってもいいと思う。両国駅からすみだ北斎美術館までの動線上に葛飾北斎由来のものがほとんどない。地域の資源を活かしたまちづくりができていない。道路を広くする、鉄道を高架するだけでなく街並みの景観を大事にすることも都市計画に組み込むべきである。
- ・これ以上の開発促進より二大地域開発（錦糸町・両国地域、押上・曳舟地域）に対応した

自然環境づくりに力を入れてもらいたい。墨田区の特徴である隅田川、荒川、旧中川を大いに活用した区民の心の癒しになる場所づくり。

(交通)

- ・コミュニティバスが3路線で一方方向にしか走っていないこと。
隣の台東区と比べると路線が少なく、また一方方向にしか走っていないので、とくに両国方面には行きたいのに行きづらい状況になっています。
河川を活かした交通や、観光への利用がもっと進めばと感ずることが多いです。
- ・南北（例：両国～曳舟）の交通手段の少なさ。横（東西）は比較的移動しやすいが縦（南北）は不便。また、JR 錦糸町駅南口・北口が自由に行き来できないのは改善すべき。

防災

- ・ハザードマップを見ると、墨田区、荒川区、足立区などは浸水被害や火災被害の危険度が高い。具体的な対策は進んでいるか。
- ・災害対策。密集しているため、震災の危険性が高い。古い木造建物密集する地域では、耐震性が低く、延焼しやすい建物が多く残っている。こういった既存不適格や建築基準法違反の建物を事業として利用する事業者や地主に毅然とした対応が必要と思う。
- ・災害に弱い（地形的に）。
- ・さまざまな災害の対応。
- ・空家問題。
- ・天災に対して不安がある。荒川や隅田川の氾濫による水害、住宅密集地域での地震による被害は脅威。工場や住宅地での火災も被害が大きくなりそうで怖い。災害が起きたときに被害を最小限にするための対策や避難時の衣食住の確保に今まで以上に力を入れる必要があると考えている。
- ・防災に関しては、ハザードマップで最悪な状況が想定されるにもかかわらず、遅々として改善が進んでいないこと。道路の拡幅や建物の耐震補強等公助としての発信が弱いこと。
- ・北部には狭隘道路も多く、災害時の対応に難しさがあると感じる。相当数の住宅が建て替えが進み、さらに区画整理など抜本的な対策を講じにくくなってきている。それゆえ、より充実した避難所の準備が必要と思う。
- ・防災対策
近隣に木密地域が残っており、災害時の対応をもう少し、現実的に即したものにする必要があります。
- ・町並みは急速に変化し、人口も増え、多くの防災等に取り組みが行われたが、住民の高齢化が進み、その対策が考えられるが大きな災害が起こった時の対応が心配です。（能登半島地震の経過を見て）

環境

- ・地球温暖化が進み、世界的に危機感とともに対策を講じている中で、地域の中から身近にできる環境配慮行動をより一層積極的に展開すること。

区政全般

(シティプロモーション・情報発信)

- ・新しい文化や産業に広報やアピールが少ないこと。
アストロスケール社の成功や、テレビアニメ「リコリス・リコイル」の舞台になったなど、若い人が興味を持ちそうな新しい文化や産業がありますが、区をあげての露出が少なくチャンスを逃していると感じます。
- ・シビックプライドの醸成。
区民が誇りに思うべき墨田区の価値が、十分に認識・共有・共感されていないことがある。生活者・事業者への積極的な告知を、総合的な広報戦略の中で実現していくと、より良くなると思う。

(区職員)

- ・スタッフプライドの醸成。
働いて良かったと思える行政の現場作り、可能な限り在住職員を増やすことができるよう、住宅手当等のインセンティブを検討。災害対策上も多くの職員が現場の近くにいることは重要な視点。
- ・区職員の意識改革。

(地域差)

- ・大きな建物を建ててそこに集約するのが好きだが（曳舟図書館や保健センター等）、区内の遠いエリアからは行くのが大変である。特に南部に集中しがちで、北部はいつもないがしろにされている感がある。
- ・墨田区の中でも地域差はだいぶ大きい。特に南の端（両国・錦糸町）や北の端（鐘ヶ淵）の人たちは、活動の多い向島地域が羨ましいという話をよく聞く。子どもの居場所も区内に増えているが、子どもは行動範囲が狭いため、同じ小学校の子しか集まらない…という場所が多い。区内全域をカバーするには、大きな施設を1つつくるより、小さな施設をたくさん散らばす必要を感じる。

(その他)

- ・新しいニーズへの対応不足（対応の遅さ）。たとえば、不登校児の居場所については、区内のフリースクールが少なく、江東区など近隣の区に通わせている家庭もある。
小学校でも教師の発達障害に対する理解が足りないなど、時代の変化についていけないように見受けられる。また今後増えていく外国人への対応なども、後手に回っている

印象を受ける。

- ・SDGs や DX の実行が遅い。SDGs や DX など横軸の目標や課題に対して、区役所の各部署の足並みが揃いにくい。
- ・考え方が内向き。外に目を向けて、周りの地域との協力や、活かすことができていない。
例えば、台東区は観光に強いが、墨田区が同じ領域で張り合っても仕方がない。
その観光地の隣接地という利点を活かすために、何ができるか？という発想ができない。
- ・町会役員のスマートフォン教室を提案しているが、都が指導者の派遣制度があるから区としてできないとのこと。すべて都に気を使いすぎ。
- ・人口の増加に伴い、世帯数が増えたが、少子高齢化や世帯の核家族化、単身化が進行している。

※アンケートの原文ママで意見を掲載しています。